新約聖書の中の祈り　第5回

□「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの３つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「イエスの祈り」のアウトライン・・・福音書の中から、イエスの祈りについて22の事例を取り上げ、それぞれに祈りの場所や時間、そのときの姿勢、祈りの内容、そして祈りがどのように答えられ、どのような出来事につながっていったか、などを見ていきます。

1. 洗礼を受けたときの祈り
2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り
3. 十二使徒を選んだときの祈り
4. 五千人の給食を前にしての祈り
5. 五千人の給食の後の祈り
6. 四千人の給食のときの祈り
7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り
8. イエスの変貌のときの祈り
9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り
10. 「主の祈り」に先立つ祈り
11. 子どもたちを祝福したときの祈り
12. ラザロのよみがえりのときの祈り
13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り
14. 最後の過越の食事での祈り
15. 最後の過越の食事の間での　ペテロのための祈りへの言及
16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り

17. 大祭司としての祈り
18. ゲッセマネにおける祈り
19. 差し控えられた祈りについての言及
20. 十字架からの祈り
21. エマオにおける祈り
22. 昇天を前にしての祈り

□「イエスの祈り」の22の事例から見る24のポイント

1. イエスは、しばしば、一人になって祈るようにしていた。
2. イエスが祈りをした時間帯は、さまざまである。朝であったり、夕であったりである。
3. イエスが祈りをしたときの姿勢も、さばざまである。立って、ひざまずいて、あるいは顔を地面につけて、天を見上げて、というように。
4. イエスの祈りは、しばしば、重要なターニングポイントとなる出来事の直前に祈られている。
5. イエスは、大いなるみわざをするときにも祈った。
6. イエスは、プレッシャーを受けたときにも祈った。
7. イエスは、悲しみのときにも祈った。
8. イエスは、死の直前にも祈った。
9. イエスは、とりなしの祈りをした。ペテロのため、イエスを十字架に釘付けにした兵士たちのため。
10. イエスの祈りの時間は、長短さまざまであった。夜通しや、1時間など。
11. イエスは、父なる神に対して祈った。誰に祈るのか、父なる神である。
12. 祈りのタイプはさまざまである。請願、祝福、感謝、とりなし。
13. イエスは、聖霊に満たされ、喜びにあふれて祈ったことがあった。
14. イエスは、「祈りの本」によらずに、その時その場、自分のことばで祈った。
15. イエスは自分の感情が大きく動く中で祈ったことがあった。
16. イエスは、個人的にも公けにも祈った。
17. イエスは、ほとんどの場合、信者のために祈った。不信者のための祈りは稀である。
18. イエスが祈る動機の中には、神の栄光を含んでいた。そして、私たち自身と他の人々の霊的に益となることを含んでいた。
19. イエスの祈りは、漠然としてはいなかった。誰のために何を祈り求めるのか、はっきりとしていた。
20. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、その理由を明確にした。
21. イエスの祈りは、誰かと対話しているような調子であった。
22. イエスは自分の祈りがすべて聞かれているという確信をもっていた。その一方で、祈りの中で求めたことが、すべてそのとおりに答えられたというわけではない（マタイ26：36～46）
23. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、父なる神のみこころにかなうのであれば、という条件付きで求めた。
24. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときに、その願いを繰り返し言うことがあった。

□本日の内容・・・22の事例の中から、17番「大祭司としての祈り」の前半

17. 大祭司としての祈り
    (1) 【補足】メシアの役割は、預言者・大祭司・王
        ① イエスはイスラエルの王として民の前に登場したが、イスラエルの指導者たちはイエスのメシア性を否定した。3年半の公生涯におけるイエスの働きは、「預言者」としての働きであった（マタイ13：57、ルカ13：33）
        ② 最後の過越の食事を終えて、イエスの役割は「大祭司」へと移行した。
            ● 十字架の上で流した血は、私たちの贖いのためであったが、同時に天の幕屋を清めるための血でもあった。復活後、イエスの最初の使命は、天にのぼり、天の幕屋を清めることであった（ヨハネ20：17、ヘブル9：11～12、23～24）
            ● 再び地上に戻り、復活から40日間、弟子たちに現れて、ご自身の復活を明らかにされた（使徒1：3）。そして、イエスはオリーブ山から天に昇られた（使徒1：9～12）。天では、大祭司として、信者たちのためにとりなしていてくださる（ヘブル2：17～3：1、4：15～5：10）。
            ● 今、現在のイエスの役割は、「私たちの大祭司」（ヘブル4：15）である。
        ③ 大患難期の末期、イスラエルの民族的救いの後、地上に再臨する。イエスは、イスラエルと異邦人のすべてを支配する「王」として、世界を支配する（ヘブル12：28、11：16、13：14、Ⅱテサ1：5～10、黙示録1：6、5：9～10、19：11～16、20：6）
    (2) ヨハネ17：1～26　これは、大祭司としての役割を開始したことを示す祈り
    (3) イエスの祈り、22の事例の中で、最も長い祈り
    (4) とてもよく構成された祈り、大きく分けると3つの区分
        A) イエス自身のための祈り（1～8節）
        B) 特に11人の使徒たちのための祈り（9～19節）
        C) すべての信者たちのための祈り（20～26節）

A) イエス自身のための祈り（1～8節）

1. 二つの願い求め
    (1) 父から与えられたわざを完遂できるようにと願い求める（1～4節）
    (2) 神の栄光に輝く有り様に戻ることを願い求める（5～8節）
2. 一つ目の願い求め（1～4節）
    (1) イエスの姿勢と目線、祈りの対象
        ① 1節　「イエスは、目を天に向けて、言われた」・・・イエスの姿勢と目線
        ② 1節　「父よ」・・・祈りの対象は、父なる神

(2) 願い求めの内容

① 1節　「時が来ました。あなたの子が、あなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください」・・・十字架につく時が来た。「子の栄光を現わす」とは、父なる神が御子イエスを死から復活させること。

② 2～3節　「それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたはすべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」・・・父なる神を知ること、そして父なる神がメシアを遣わしたこと、メシアは神であり人であるお方であると知ることが、永遠のいのちを受けることと直結している

③ 4節　「あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。」

④ 1節から3節まで事が進むと、4節の結果となる。

- イエスが十字架の上で、贖いの死を遂げる。
- 父なる神がイエスを復活させて、子の栄光を現わす。
- 復活したイエスは、信者すべてに永遠のいのちを与える。
- その結果、父なる神の栄光が地上で現わされる。

⑤ 1～4節での願い求めは、一言で言うならば、父から与えられたわざをイエスが成し遂げることができるように、との祈りである。

3. 二つ目の願い求め

(1) 祈りの対象　5節「父よ」

(2) 願い求めの内容

① 5節　「今は、みそばで、わたしを栄光に輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。」・・・イエスが受肉前に持っていた栄光を回復することを指す。

② 受肉によってイエスの栄光は、ベールに包まれたような状態。イエスの願い求めは、そのベールをはずすことである。

③ 6～8節で、イエスは、父にそのような願い求めをする理由を語る。

- イエスは、父なる神について、弟子たちに明らかに知らしめた（6節前半）
- その中で特にイエスが教えたのは、弟子たちと父なる神との関係、弟子たちと子なる神との関係、そして弟子たちとみことばとの関係であった（6節～8節前半）
- 8節後半では、イエスが弟子たちへ教えたことに対して、弟子たちがどうするかが総括されている。
  - ➢ 彼らは、それを受け入れた（受け取った）→それを確かに知った→それを信じた